

科目名	<b>解剖生理学 II</b>	科目分類	<input type="checkbox"/> 基礎教育科目 <input checked="" type="checkbox"/> 専門教育科目
		開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 卒業必修 <input checked="" type="checkbox"/> 栄養士必修 <input type="checkbox"/> 選択
英文表記	<b>Human Anatomy and Physiology II</b>	開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年
ふりがな	ひろ かわ ただ お	開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当教員名	廣 川 忠 男	授業形態・修得単位	講義・2単位
		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用
		実務家教員担当科目	
授業のテーマ	人体諸器官の解剖学的特徴（構造）および生理学的特徴（機能）について理解する。解剖生理学IIでは、細胞と組織、泌尿器系、神経感覚器系、内分泌系、生殖器系、運動器系、皮膚について学習する。		
授業概要	解剖生理学は生化学とともに、病態生理学や臨床栄養学等を深く理解していくうえでの基礎となる科目に位置づけられる。本講では人体を各器官系統に分け、それらを構成する各器官の形態と構造およびその機能について解説することにより、受講生がヒトの体内における生命現象がどのようなメカニズムによって行われているかについて学び、基礎的な人体の解剖と生理の概念を理解することをめざす。		
到達目標	①人体および各種器系系の構造上の特徴を理解し、各部の名称を覚えるとともに説明できる。 ②人体の生理機能に関する知識を習得するとともに、生体の恒常性の維持についてその原理を理解したうえで説明ができる。		
授業時間外の学習	授業の前にテキストの関連ページを通読し、よく理解できない事項を整理して臨むこと。生化学・病態生理学・臨床栄養学など他教科との関連性を意識して学習すること。常に復習（週に最低60分程度）を心がけ、分からない部分は図書館等で調べたり、教員に質問するなどして理解に努めること。		
履修条件	「解剖生理学I」と併せて履修すること。		
授業計画			
第1回	テーマ：細胞と組織（細胞内小器官とその機能／組織の分類／上皮組織／支持組織／筋組織／神経組織）		
第2回	テーマ：泌尿器系の構成（腎臓／尿管／膀胱／尿道／ネフロン）		
第3回	テーマ：泌尿器系の機能（腎臓の機能／クリアランス／糸球体濾過量／体液量・浸透圧・電解質の調節）		
第4回	テーマ：神経系の構成（神経系の分類／脳／脊髄／脳脊髄神経（体性神経）／自律神経）		
第5回	テーマ：神経細胞の生理機能（ニューロン／静止電位／活動電位／興奮／伝導と伝達／シナプス）		
第6回	テーマ：中枢神経系の生理機能（大脳／間脳／脳幹／中脳／橋／延髄／小脳）		
第7回	テーマ：末梢神経系の生理機能（脳神経／脊髄神経／上行・下行伝導路／脊髄反射／交感神経／副交感神経）		
第8回	テーマ：特殊感覚器の構造と機能（視覚／聴覚／平衡覚／味覚／嗅覚）		
第9回	テーマ：内分泌系の構成（視床下部／下垂体／甲状腺／上皮小体／膵臓／副腎／性腺／消化管）		
第10回	テーマ：ホルモンの機能（1）（ホルモン分泌の調節機構／視床下部・下垂体・甲状腺ホルモンの作用）		
第11回	テーマ：ホルモンの機能（2）（副腎・膵臓ホルモンの作用／カルシウム代謝調節・血糖調節ホルモンの作用）		
第12回	テーマ：生殖器系の構成と機能（男性生殖器／女性生殖器／性周期の調節機構／妊娠と分娩）		
第13回	テーマ：骨の構造と機能（長管骨の構造／骨の連結／関節の構造／造血／骨の成長／骨のリモデリング）		
第14回	テーマ：筋の構造と機能（分類と特徴／主要骨格筋／表情筋／咀嚼筋／筋線維の構造／筋収縮のしくみ）		
第15回	テーマ：皮膚と体温調節（皮膚の構造と機能／体温の制御機構）		
第16回	定期試験		
テキスト	上嶋 繁ほか編：健康・栄養科学シリーズ「解剖生理学」，南江堂 2020（「解剖生理学I」と共用）		
参考文献・資料	講義の中で適宜紹介する。		
成績評価の方法	出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。定期試験（70%）、小テスト・レポート・受講態度（30%）により評価する。		
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)		
オフィスアワー	毎週の授業終了時		
受講生に望むこと・受講のルール	毎回の出席カードで質問を受け付けるので、疑問点・理解できない点は遠慮なく質問すること。授業には積極的な姿勢で臨んでほしい。講義回数3分の1を超えて欠席した場合は、期末試験の受験資格を失うので注意のこと。		